

I 研究計画

目指す子供の姿

既存の知識や獲得した情報を基にし、社会的事象について自分の考えを表明できる

社会科における納得解を導く姿を、「既存の知識や獲得した情報を基にし、社会的事象について自分の考えを表明できる」と設定し、研究に当たる。

1 目指す子供の姿について

(1) 具体として

「既存の知識や獲得した情報を基にし」とは、子供の社会認識や各種諸資料、インタビュー等の活動から獲得される情報を思考・判断・表現の材料とすることである。社会の課題をとらえ、解決に向けて選択・判断し構想する際に大切なのは基礎となる情報を豊かに獲得し、これらを基に思考・判断・表現することで考えは独りよがりなものではなく、他者にも一定の納得を得るものとなる。

「社会的事象について」とは、岡明秀忠は、「社会的事象とされるものには、①人間に関する事象、②人間の行動に関する事象、③人間を取り巻く環境に関する事象がある*1」と述べている。つまり、社会科で子供が説明する対象であり、説明する際に用いられる対象でもある。

「自分の考えを表明できる」とは、社会的事象について子供が獲得した情報やそれらを元に考えたことから問いを立て、自分の考えを形成する。それらを交流することを通して、立場や理由を明確にして選択・判断し構想したことを他者に伝えることである。

(2) これまでの成果と課題

一年次の成果としては、話し合い場面において、問い返したり、言い直させたりすることで潜在化した立場を明確にすることにつながった。しかし、課題としては問題意識を生じさせる際に、子供が資料から得られる情報が多く子供の認識が多岐にわたり、問題意識が生じにくく、自分ごととして捉えていないということが挙げられた。

2 研究内容について

目指す子供の姿に迫るために、二年次は研究内容として以下の二点に取り組む。

(1) 問題意識が高まる問題設定の在り方

社会の課題をとらえ、解決に向けて選択・判断し構想する際に、自分ごととして社会的事象を捉えることが必要である。そのために、子供の生活に身近ではあるものの社会的事象として捉えていないものを提示して問題を設定したり、子供が調べたことや学習を通して考えたことから問題を設定したりすることで問題意識が高まるようにする。

(2) 多角的に考えるための話し合いの設定

社会の課題をとらえ、解決に向けて選択・判断し構想する際に立場を明確にして考えさせるようにする。そのために、子供の発言を問い返したり、言い直させたりすることや子供の判断を可視化したりして立場を明確にさせることでそれぞれの立場からメリットを明示させ、それらに関連付けることで社会的事象を説明したり、社会の課題について複数の立場からメリットを明示したことを基に選択・判断したりすることにつながると期待できる。

3 研究方法について

(1) 子供のノート記述やアンケートにより、最初の社会的事象に対する考え(単元導入時や学習問題成立時と最後の考え(単元終末時や授業末)を比較し分析を行う。

(2) 授業を記録した映像より話し合いを書き起こしたプロトコルを基に分析を行う。

(今 伸仁)

*1 森分孝治他「社会科重要語 300 の基礎知識」明治図書, 2000, p85

II 研究実践及び考察

【実践例① 授業者：今 伸仁 対象：4年1組 24名】

本時で目指す授業

猿賀神社十五夜大祭について、調べた情報を基に、祭りを受け継いでいくためにどうすればいいのか考える授業。

1 単元名 「津軽に伝わる年中行事～猿賀神社十五夜大祭～」

2 単元の目標

県内の伝統や文化について、具体的に猿賀神社十五夜大祭を取り上げ、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組に着目して、調査したり、地図などの資料で調べたりして、猿賀神社十五夜大祭の様子を捉え、年表等にまとめることを通して、地域の人々が受け継いできたことや地域の発展や五穀豊穡といった地域に住む人々の願いがこめられていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決し、学習したことを地域社会に生かそうとする態度や地域社会の一員としての自覚を養う。

3 目指す子供の姿に向けて

単元で目指す子供の姿

資料から得た情報を基に考えをもち、話し合いを通して自他の考えを比較・整理し、関連付けることで、社会的事象の意味や意義を考える姿。

手だて

- ・ 子供の生活経験を想起させ、学習問題を見出すための話し合い。
- ・ 立場を明確にするための話し合い。

単元について

本単元では、津軽地方に伝わる年中行事として、平川市尾上の猿賀神社で行われる猿賀神社十五夜大祭を取り扱う。猿賀神社十五夜大祭は、古くから行われており、毎年旧暦の8月15日を中心に3日間行われている。祭事と奉納神賑行事からなり、奉納神賑行事として、地域の獅子踊が奉納されている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行われている県下獅子踊大会が中止になる等例年とは異なった形で行なわれている。

長い間受け継がれ、神社の方や、獅子踊に携わる方等様々な人々の努力によって受け継がれてきたことから、具体的に調査したり、地図等の具体的資料から情報を得たり、年表に整理したりするのに適している。

単元で育みたい資質・能力

- 資料から得た情報を基に、自分の考えを形成すること。
- 自他の考えを比較・整理することで、立場を明確にすること。
- それぞれの立場から考えたことを関連付けること。

主に働かせる見方・考え方
猿賀神社で古くから続いている十五夜大祭を、その由来や起源、時代における変化、それに関わる人々の願いの視点から捉え、これからの十五夜大祭の在り方を考えること。

子供の実態

- ・自分の生活経験を基にして、社会的事象に対する考えを発言する子は多い。
- ・資料から情報を読み取ることについての差が見られる。また、情報を読み取ってもその情報を関連させて発言できる子は少ない。
- ・考えを発言するものの、具体的な立場を想起して考えている子も多くない。
- ・猿賀神社十五夜大祭という年中行事を知っている子供は少ないものの、隣の猿賀公園も含め、ほとんどの子供が足を運んだことがある。

4 本時の実際(4/5)

(1) ねらい

自分の判断を話し合うことを通して、具体的な立場を明確にして、猿賀神社十五夜大祭を未来に引き継いでいくための方法を考えることができる。

(2) 本時の概要及び話し合い場面のプロトコル

1 これまでの学習を振り返り、学習問題をつくる。

新型コロナウイルス感染症がもしこの先も続いたら十五夜大祭はどうなるのだろう。

2 最初の判断を書き、話し合う。

立場を明確にするための話し合い。

C1:今まで以上に新型コロナウイルスが広がったら、延期になるか、なくなるかもしれない。

T1:同じ考えの人はいますか。 C2:弘前で身近になったらなくなるかもしれない。

T2:二人の発言を比べてみてどんな感じがしますか。

C3:最初の考えは今までって言っていたけど、次の発言は弘前って言っていました。

C4:最初の考えは日本全体っていう感じがする。

T3:そうですか。 C5:そうです。日本もアメリカみたいに流行ったら大変だからです。

T4:もう一つ確認するけど、なくなるってどういうこと。

C6:ずっとなくなるってことじゃなくてその年だけ中止にする。

C7:その時に新型コロナウイルスが広まったら中止にして、また、来年も弘前市内で広まるのが繰り返したら無くなるけど、収まってきたらまた再開する。 T5:祭りが無くなるってどういうこと。 C8:十五夜大祭自体ができなくなる。

T6:他にありませんか。 C9:何年も今まで以上に新型コロナウイルスが続いたら、できなくなっていく。

T7:今の考えにはどんな視点が入っていますか。

C10:今と何年も先を比べていて、時間で考えているところが違うと思います。

T8:どれくらい先の事を考えているの。 C11:5年から10年くらいです。

T9:3人の共通する考え方は。 C12:共通するのは、無くなるってことだと思います。

T10:みんな無くなるって考えたの。 C13:祝うだけにして、夜店を減らして、動画配信もして人を減らしたい。

C14:私はなるべく人を減らして、十五夜大祭を行うか、オンラインで行うかを考えていて、たくさんの人が新型コロナウイルスにかかる人が増えると安心して行うことができないけど、宮司さんたちは中止にしないっていう強い思いがあるから、神様を祝う最低限のところはやるべきだと思う。

C15:神社にお客さんを入れないで、オンライン配信等で神社にいる気持ちになってもらって楽しんでもらう。十五夜大祭は神社でやりたいけどこういう状況だから感染したくないから動画配信だと接触しない。

C16:テレビの生放送で楽しんでもらえばいい。 C17:ハロウィンの渋谷の様にバーチャルで楽しんでもらえばいい。

T11:それってどういうこと。 C18:VRみたいなことだと思います。

C19:パソコンの中で渋谷のイベントを再現するってこと。

T12:いろんなアイデアがでましたね。さっきの意見でやりたいって言うてくれたんだけど、やりたいのは誰なの。

C20:猿賀神社で働いている人たちが神様のためにやってあげたいって考えていると思う。

C21:十五夜大祭の動画配信もいいんだけど、神様に思いが伝わらない。ちゃんとやるからこそ神様に思いが伝わるし、なくならないと思います。

C22:十五夜大祭は猿賀神社で一番大きいお祭りだし、神様が来た日って言われているし、そういうのを祝いする日で神様への思いを伝えるためだから、よほどのことがないから中止にしないって言うていた。

T13:神社の人たちからすると中止にしたいくないんだけどみなさんの中には無くしたほうがいいって言う考えもあるんだよね。それってどんな人の事を考えているの。 C23:十五夜大祭に来る人たち

T14:この人たちにどうなって欲しくないの。 C24:新型コロナウイルスにかかって欲しくない。

T15:来る人だけ。 C25:神社で働く人やお祭りに関わる人 C26:出店を出す人にもかかって欲しくない。

C27:神社の人が新型コロナウイルス感染症にかかって、掃除する人やご飯をあげる人がいなくなるように感染予防している。

C28:もし神社の人がかかったら、せっかく神様のためにお祭りをやっているのに、神様も悲しい。

T16:神社の人たちだけですか。 C29:参加している人たちも神様の思いがあると思う。

T17:どんな人ですか。 C30:獅子踊りや祭りに参加する人。

T18:二つの判断があるんだけど、共通することありますか。 C31:どちらも神様への思いが共通しています。

3 最後の判断を書く

評価 ノート記述から、具体的に立場を明確にして、猿賀神社十五夜大祭を未来に残す方法を考えているかを評価する。(思考力・判断力・表現力)

5 実践を振り返って

(1) 話し合い場面のプロトコルの考察から。

話し合い場面のプロトコルから、問題の設定場面と話し合い場面について考察する。

① 本時の問題の設定について

問題の設定場面において課題が見られた。それは、子供達の思考が拡散される問題だったことである。導入では、前時の情報収集場面を想起させた後、本単元での問題に照らし合わせ、まだ子供達に祭りをどうするか明らかでないことを引き出して問いを設定した。しかし、地域や「この先」という言葉が示す範囲や期間が曖昧だった。そのため、話し合いの場面で猿賀神社十五夜大祭を行うことに対して否定的に判断している子供の考えから取り上げた際に問い返しをして、どこで新型コロナウイルス感染症が流行すると考えているのか、また、どのくらいの期間で新型コロナウイルス感染症が流行すると考えているのかを確認する必要があった。

② 立場を明確にする話し合いについて。

本時の手立てとして、立場を明確にする話し合いを設定した。その成果として、話し合い場面で、子供達が具体的な立場が発言していたことである。本学級の子供の実態として、自分の考えを伝えようとするものの、社会的事象に内在する立場を明確することができずにいる話し合いが多く、具体的な立場を明確にするために、子供に発言させ、明確にしやすいところで問い返した。プロトコルでは、T12であり、それ以降「神社で働く人」「十五夜大祭に来る人」「出店を出す人」「獅子踊りや祭りに参加する人」といった具体的な立場を発言している。

(2) 子供のノート記述から

本時における子供の最初の判断と最後の判断を比較し、分析を行う。

表 1 本実践による子供の最初と最後の判断(子供数 24 人)

具体的な記述内容		人数	割合
宮司さんからの情報や猿賀神社十五夜大祭の重要性を根拠にして十五夜大祭を行うことを記述。	最初	7人	29%
	最後	14人	58%
オンラインで猿賀神社十五夜大祭を行うことに関する記述。	最初	1人	4%
	最後	5人	20%

感染対策を徹底して猿賀神社十五夜大祭行うことに関する記述。	最初	8人	33%
	最後	2人	8%
猿賀神社十五夜大祭を行わない旨の記述。	最初	8人	33%
	最後	2人	8%
判断できない旨を記述。	最初	0人	0%
	最後	1人	4%

最初の記述では、前時で宮司さんから獲得した情報や十五夜大祭の重要性を根拠にして記述しているのは14%だったが、58%の子供に増えている。一方で、十五夜大祭を行わない旨を記述しているのは、33%から8%に減少している。話し合い場面において、具体的な立場が明確になったことや宮司さんからの情報、特に、猿賀神社で働く人の猿賀神社十五夜大祭に対する思いが子供から話されたため変化したと考えられる。

また、オンラインで猿賀神社十五夜大祭を行うことに関する記述に関しては、4%から20%に増えている。話し合いの場面で、子供達が想起しやすいVRの例が話され、その考えに引張られたと考えられる。前述の子供達の記述の中には新型コロナウイルス感染症拡大を防止する効果だけで無く、遠隔地等で猿賀神社に参拝できない人々が参加できることをメリットとして挙げている子供もいた。その背景として、前時に宮司の山谷さんから、猿賀神社の分社や寄進者が全国に存在することを聞いていたからと考えられる。

(3) 子供のアンケート記述から

授業終了後、本実践に関するアンケートを対象学級の子供に行い、結果をもとに分析をする。

表2 本実践におけるアンケート結果 対象24名

Q 今日の話合いを通して、自分の判断はどう変化しましたか。
変わった…9人 強くなった…8人 迷った…5人 変わらない…2人

本実践での手立て、立場を明確にする話し合いが目指す子供像に迫るために貢献したということが言える。表2より問いに対する判断が変化したと考える子供が多いということからである。特に、変わったと考える子供と強くなったと考える子供が多く、話し合いを通して他者の判断に触れることで自分の判断と比較したり、関連付けたりして思考していると多くの子供が考えているからである。

6 授業者の実感として

本実践では、猿賀神社の宮司山谷さんから情報を獲得した後に、本時を行った。それによりもっと猿賀神社や獅子踊、十五夜大祭について知りたいと思った子供も多く、問題を収斂させたい授業者との間に差違があった。子供達の願いや思考に沿った学びの流れにする必要があった。また、新型コロナウイルス感染症を扱うことと合わせて、単元で育みたい資質・能力に迫るために問題を精査する必要があった。さらに、最終判断で具体的な立場を明らかにしている記述は少なかったため、具体的な立場を強調する等手立てが必要だった。

(今 伸仁)

【実践例② 授業者：櫻庭 卓也 対象：5年1組 31名】

本小単元で目指す授業
ICT機器を活用し、子供の学びを進める。青森県西部(津軽地方)で生産されている「青天の霹靂」と「まっしぐら」について調べたことをもとに、高品質なものや付加価値のあるものを生産することについて、多角的に考える授業。

1 大単元名 「わたしたちの食生活を支える食糧生産」 小単元名 「津軽のこれからの米作り」

2 小単元の目標

我が国の農業における食料生産について、具体的に青森県西部(津軽地方)の米の生産に関わる人々を取り上げる。人々の協力関係、技術の向上などに着目して各種の基礎的な資料で調べ、まとめ、食料生産に関わる人々の働きを考え表現することを通して、食料生産に関わる人々は高品質なものや付加価値のあるものを生産することで食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に社会の一員としてこれからの農業の発展について考えようとする態度を養う。

3 目指す子供の姿に向けて

本小単元で目指す子供の姿

「まっしぐら」を生産するか「青天の霹靂」を生産するか話し合うことで、複数の立場を明確にし、それぞれのメリットをもとに自分なりの考えを再構築し、互いに納得できる答えを導く子供

本小単元の主な手だて

- ・ 仮想オンライン学習と仮想オフライン学習の交互の学び
- ・ 資料から得た情報と子供の認識にずれが生じる資料提示

本小単元で扱う題材について

生産者と消費者の願いにこたえるため、米の品種改良が青森県でも行われている。「青天の霹靂」は厳しい栽培基準や出荷基準のもと食味ランキング5年連続特Aを獲得し、高値で取引されている。一方「まっしぐら」は低価格帯の米であるが中食・外食の増加に伴い、一般消費だけでなく業務米としての需要が伸びている。生産者は今後、消費者の需要や願いに応じながら生産を進めていく必要がある。

本小単元で育みたい資質・能力

○自分なりの考えや選択・判断した理由を明らかにすることで、複数の立場を明確にし、それぞれのメリットもとに自分なりの考えを再構築する力。

子供の実態

- ・ 社会的事象に関心を持ち、資料から具体的な情報を獲得し、比較することができる。また、読み取った情報を根拠として自分なりの考えを記述することができる。
- ・ 話し合いを通して、互いの考えを総合したり、関連付けたりして自分なりの考えを再構築できる子は少ない。

主に働かせる見方・考え方
青森県西部(津軽地方)の米の生産に関わる人々が品種改良を行い高品質なものや付加価値のある米を生産することを工夫や努力の視点で捉え、複数の立場のメリットや願いを関連付けること。

4 仮想オンライン学習と仮想オフライン学習の交互の学びについて

新型コロナウイルス感染症に対する備えとして、また、GIGA スクール構想で一人一台 ICT 機器を用いて学びを進める姿を想定して下記の仮想オンラインと仮想オフラインを交互に繰り返すことで子供の学びを進める。

- 仮想オンライン学習とは、子供が ICT 機器に向かって行う学習形態で、主に教室等で学級全体が集合して学ぶこと想定したものである。考察・構想の場面では、仮想オフライン学習で全ての子供の考え、投稿欄に提示することから子供の学習の意欲を喚起することにつながると考える。また、投稿欄にあるので、子供自身が欲しい情報や友達の考えを瞬時に獲得することにつながり、考えを再構築する一助になると考えられる。

- 仮想オンライン学習とは、子供が ICT 機器から離れて行う学習形態で、主に家庭において一人で学ぶことを想定したものである。特に、課題追究における情報収集の場面で、子供が自分の裁量の時間で資料を探したり、資料から得た情報を整理したりすることで、考察・構想の場面で自分の考えを表出させることにつながると考えられる。

5 小単元の実際

次	○主な学習活動・予想される子供の発言・思考	※資料◎評価・教師の働きかけ 手だて
第一 次	○家庭で食べている米を調べ、投稿する。 ○調べたことから生産者の立場ではどんな米を生産すべきか考える。	※各銘柄米のパッケージデザイン ※ Microsoft Teams投稿画面 ◎ノート記述から、消費者、生産者双方の願いを関連付けてどのような米を生産するか考えているかを評価する。 (思考・判断・表現)
第二 次	○資料から得た情報を基に品種改良の仕組みについて話し合う。	※青森県産業技術センターWebページ ※品種改良の仕方の図 ※「青天の霹靂」と「まっしぐら」系譜の図 ※各銘柄米の買取価格のグラフ ◎ノート記述から、品種改良された米の特徴産業技術センターの人々の取り組みを根拠に消費者や生産者双方の品種改良のメリットを捉えているかを評価する。 (知識・技能)
第三 次	仮想オンライン 〈15分〉 1 自分が生産者だったら「青天の霹靂」と「まっしぐら」のどちらを生産するか判断する。 ・消費者が喜ぶ味の良い「青天の霹靂」を生産すべき。 ・高値で取引されている「青天の霹靂」を生産すべき。 2 子供の認識と資料から得た情報のずれを生じさせ、問題をたてる。	事実と子供の認識にずれが生じる資料提示を行う。 ※青森県主要品種作付面積推移グラフ ※各銘柄米の買取価格のグラフ ・「青天の霹靂」がたくさん生産されるはずなのに実際は作付面積が少ないこと（ずれ）に着目させる。
	なぜ、「青天の霹靂」でなく「まっしぐら」を生産する農家が多いのだろう。	
	仮想オフライン 3 問題に対して予想を Microsoft Teams に投稿する。 ・「まっしぐら」の方がたくさん収穫できるのだろう。 ・「青天の霹靂」は高値なので売れないのだろう。	◎ Microsoft Teamsの投稿から、「青天の霹靂」や「まっしぐら」について何を調べればいいのか学習の見直しもっているかを評価する。 (主体的に学習に取り組む態度)
	仮想オンライン 〈15分〉 4 課題に対しての予想を共有し、資料から得た情報を基に話し合う。 ・品種特性はどちらも青森県の気候に向いている。	※ Microsoft Teamsの投稿画面 ※10a当たりの収量比較図 ※青天の霹靂生産マニュアル（簡易化

<ul style="list-style-type: none"> ・「青天の霹靂」は作付地域や生産者が限定されている。 ・「青天の霹靂」は厳しい栽培基準がある。 ・「青天の霹靂」より「まっしぐら」の方が、収量が多い。 ・「青天の霹靂」出荷基準に満たないと安い価格になってしまう。 <p>5 実際に生産者の声を聞き、判断する。</p> <p>仮想オフライン</p> <p>6 もし、自分が生産者だったら「青天の霹靂」と「まっしぐら」のどちらを生産するか判断し、Microsoft Teams に投稿する。</p> <p>仮想オンライン (15分)</p> <p>7 判断を共有し、判断理由を明らかにする。</p> <p>【まっしぐらを生産する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格は安いがたくさん収穫できるから。 <p>【青天の霹靂を生産する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良いものを生産して利益をあげることができるから。 <p>仮想オフライン</p> <p>8 話し合いを踏まえ、最終判断を Microsoft Teams に投稿する。</p>	<p>したもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮定した収量と買取価格から収益を計算させる。 <p>◎発言やノート記述から、「青天の霹靂」や「まっしぐら」を生産することのメリットを理解しているか評価する。(知識・技能)</p> <p>※「青天の霹靂」生産者のインタビュー</p> <p>◎ノート記述から、これまでの学びを基に多角的に考え表現しているかを評価する。(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Teamsの投稿画面にコメントを書き込む。 ・判断理由からそれぞれの立場を明確にし、メリットとデメリットを明示する。 <p>◎Microsoft Teams の投稿から、双方のメリット、デメリットを踏まえ、どちらの米を生産するか自分なりの考えを明らかにして説明しているか評価する。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
--	---

6 授業後のミーティングの内容

(1) 最終判断について

◎最終判断で青天の霹靂を選択した子供はいたのか。

◎結果は以下の通り。

授多くの子供が栽培のしやすさからまっしぐらを選択すると考えたが、1組では、青天の霹靂を選ぶ子供が多かった。生産者の映像資料を見て、生産者の心意気という点に1組の子供は引っ張られたのかもしれない。

表3 最終判断で青天の霹靂、まっしぐらを選択した人数の表

	青天の霹靂	まっしぐら
1組	22人	8人
2組	8人	21人

(2) 本時で提示した資料(収量・栽培面積等)について

◎本時で提示した資料で、ずれは生まれたのか。また、どの資料でずれを生じさせようとしたのか。

◎買取価格は青天の霹靂が高い。農家の立場で考えれば、買取価格の安いまっしぐらより青天の霹靂を生産するであろうと考える。しかし、栽培面積で比較すると、青天の霹靂は青森県全体の4%しかないことがわかる。このことからずれを生じさせ、学習問題を設定させた。

(3) 仮想オンライン、オフラインの学びについて

④ 今回の小単元を展開してみて、メリットはあったのか。

⑤ 今回のように Microsoft Teams の投稿を活用することで、全員が自分の意見を発信し全員の考えを共有できることで、学習に参加する意欲が高まるのではないか。オンライン、オフラインと学びを交互に進めていくためには、オンラインで「子供が興味をもち、面白いと感じるもの」を提示し、オフラインで「自発的に調べたい、考えてみたい」と興味関心を喚起する必要があるが、そこに難しさを感じる。オフラインでの子供の記述を見ると、やや言葉足らずで説明不足の記述も見られたが、共有の時間で、そこをはっきりさせ、話し合いを深めていく必要がある。

7 実践を振り返って

(1) 子供のアンケートから

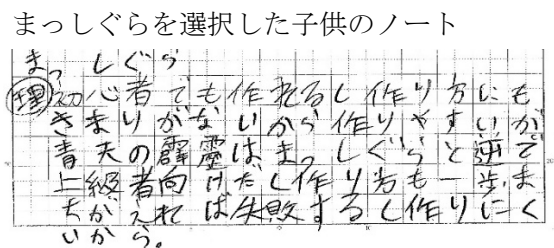
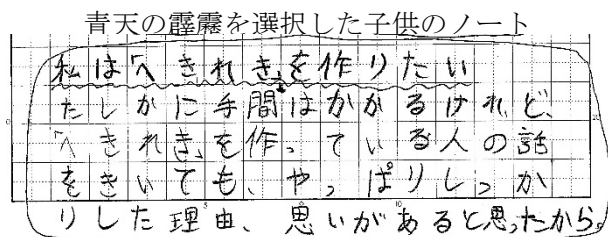
本実践に関するアンケートを対象学級の子供に行い、結果をもとに分析をする。

表4 本実践におけるアンケート結果 対象31名うち欠席1名

Q1 今回のように Microsoft Teams を使って学んで、いいことはありましたか。	
はい 30人	いいえ 0人
Q2 今回のように Microsoft Teams を使って学んで、どんないいことがありましたか。(複数回答あり)	人数
情報や考えを共有することに関する記述	11人
ICT 機器活用に関する記述	6人
自分の考えを発信することに関する記述	5人
新型コロナウイルス感染症拡大予防に関する記述	4人
その他	1人

表4より、本小単元での手立てを中心とした取組が有効であったことは、子供が Microsoft Teams を使っての仮想オンライン学習と仮想オフライン学習の交互の学びの効果を自覚していることである。特に、本実践では、多くの子供の考えに触れることができることを自覚している子供が見られた。多くの子供の考えを共有した上で、話し合いを行い子供の考えの再構築につながったと考えることができる。

(2) 子供のノート記述から



学級全体での話し合いの後に、生産者のインタビューを聞いたことで生産者の工夫や努力、思いに対する効果的な理解につながり、さらに様々な立場を勘案した意思決定につながったと思われる。

(3) 授業者の実感として

タブレット端末を用いて Microsoft Teams のチャンネル上に自分の考えを投稿し、共有することはこれからの学習で取り入れてもよいもので、普段の学びからタブレット端末等の ICT 機器を活用することが大事だと考える。普段の学びからタブレット端末等の ICT 機器を活用することで子供にそれらを用いて学びを進めることの効果を自覚させることができ、さらに活用のアイデアを広げたり、技能を向上させたりすることにつながる。新型コロナウイルス感染症拡大予防による臨時休校やインフルエンザ等による学年・学級閉鎖を行う事態になっても、普段の学びを生かして学びを継続することにつながると考える。

(櫻庭 卓也)

Ⅲ 今年度の実践を振り返って

今年度の実践を研究計画に関わる部分とそれ以外の部分に分けて振り返る。

1 研究計画について

(1) 問題意識が高まる問題設定の在り方

一年次の反省を踏まえ、問題設定場面においてどのような資料からどんな情報を獲得させるのを明確にして資料を提示することの効果が見られた。

実践例①では、単元の問題設定で、子供が猿賀神社の新聞広告等から分かったことを話し合っていく中で、疑問に思うことを話し合うようになり、学習問題へとつながっていった。一方、実践例②では、子供が、青天の霹靂とまっしぐらの買い取り価格と栽培面積を関連付けて考えることで、子供の認識にずれを生じることで問題設定できるようにした。異なる問題の設定の仕方であるものの共通するのは、子供自身が資料から獲得した情報を基にして話していることである。また、実践例①では、子供が家庭学習で調べて、見付けてきた資料も提示することで、問題意識が高まり主体的な追究につながった。

(2) 多角的に考えるための話合いの設定

社会科において立場を明確にして考えることの重要性については、文部科学省も「第3学年及び第4学年では、農家のAさん、祭り運営者のBさんなど立場を意識して考え、第5学年及び第6学年では生産者と消費者、情報の送り手と受け手など立場を変えながら考えることのできる子供を目指しています。^{*2}」と述べている。

今年度の二つの実践でも子供たちが立場を明確にするために、指導者が話合いのなかで問い返したり、児童に言い換えさせたりすることで明確にしてきた。しかし、指導者側の手立てとして語られることが多く、子供達自身で問えるように意識させていくことが必要だと考える。また、具体的な人物を通して社会的事象について深めていくような、学びの流れをつくることも視野に入れていく必要がある。

2 研究計画以外について

(1) ICT 機器等の活用について

今年度から Microsoft Teams が導入され、資料や考えを共有することができ、それを基にしてさらに考えたり、発信したりすることができるようになってきた。次年度以降、GIGA スクール構想により、一人一台端末が整備された後には、さらに効果的に活用できるようにしていく必要がある。また、新型コロナウイルス感染症拡大の契機としてオンライン会議システムを用いることのハードルが下がり、授業において校外学習の機会が減少した代わりにそれらを用いて情報獲得をすることもできた。また、オンラインで情報交換会を行うことができ、好意的な評価をいただくことができた。今後も積極的に活用していくことで研究に生かしていきたい。

表5 オンライン情報交換会参加者の感想

Q 情報交換会について感想やお気づきのことを教えてください。
<ul style="list-style-type: none">・機器の整備があれば十分可能であると感じた。有意義な情報交換会であった。・こうした交換会は今後も続けていただきたいと思っています。新学習指導要領の具現化をしている附属小学校の実践を公立学校でエッセンスを注入していくことが本県の教育にとって有益と考えます。・たくさんの先生方の考えや、共同研究者の教授のお話を聞くことができたのもとても勉強になり、これからの教材研究に生かしていきたいと思いました。

^{*2} 文部科学省 HP 平成 29 年改訂の小・中学校学習指導要領に関する Q&A<社会に関すること>
[https://www.mext.go.jp/content/1422347_001.pdf\(2021/01/20\)](https://www.mext.go.jp/content/1422347_001.pdf(2021/01/20))